

全真言宗
青年連盟

臨床宗教師を「体験」

養成プログラム開催



話す・聴く・観るワークショップに取り組む参加者

全真言宗青年連盟は9日、東京都港区の高野山真言宗高野山東京別院で災害救援研修会「臨床宗教師養成講座 体験プログラム」を開いた。各派の青年教師約90人が参加し、講義とワークショップを通じてスピリチュアルケアについて学んだ。臨床宗教師の高橋悦堂・曹洞宗普門寺副住職と谷山洋三・東北大学大学院准教授が講義を担当。高橋副住職は東日本大震災で宗教者が果たした役割を振り返り、被災者と向き合った体験を語った。

臨床宗教師に求められる倫理について説明した谷山准教授は「様々な信仰の人と公共空間で接する臨床宗教師は、檀信徒に対して布教伝道を行う宗教者とは異なると意識しなければならない」とし、「ケアの対象者が持つ迷信のような細かい価値観まで尊重する必要がある」と指摘した。

ワークショップでは、参加者が3人一組となり、「死後」をテーマに話しながらコミュニケーションの基礎を学んだ。谷山准教授は「会話にお

ける自分の感情の変化に注意してほしい。自分が持っている価値観を知ること、対人関係の傾向を知ることができる」と話した。

須方審證・真言律宗光明院住職は「普段話すこ

とのないテーマを通じて、自分の内面を感じる事ができた。宗教者のあるべき姿について教えられた」と語った。

岩田慈光理事長の導師で東日本大震災物故者追悼法会が営まれ、岩田理

事長は「臨床宗教師に関心があっても泊まりがけの研修には参加が難しい人もいる。導入部分でも触れてみたいと思った」と開催に至った経緯を述べた。

(甲田貴之)